

第12回リーグ運営会議議事録

<新規創刊プレゼン動画> [滋賀食べる通信](#) [マイファーム](#) [つくる通信](#)

<会議資料> [1日目](#) [2日目](#)

一日目-2017.4.1-

16:00 開会宣言

○オープン化した理由 リーグ代表 高橋博之
早くいくなら一人で行け、遠くにいくならみんなで行け
36の脳みそがあって少しずつ前に進んでいく
ムーブメントに加わって欲しい

○「日本食べる祭り2017」エキスポ実行委員長 手塚貴子
37の地域で各通信が頑張っている。このようなイベントはみんなで作っている。
もっと広げたい、もっといろいろな人に知ってほしい。その思いでやっている。
この場を貸してくださったまるごとにつぼん様にも御礼を申し上げたい。
プレート売上、目標は400だったが、現在500近くまで。

16:15 新規創刊希望団体プレゼン

○滋賀食べる通信

テーマは「かもす」 発酵、新しい雰囲気を作る
運営：アンテナショップチーム、このくにのかたち
発酵にまつわる生産者さんと会うと、時間と自然に対する寛容さと経緯があった
食べることへの感謝のきづき→きっかけを作っていきたい

Q&A

(ポンさん)

1. UDSは京都をやっている。運営の大変さがわかって新しい通信を発行するのがすごい。
京都をやってみて、何か活かせることはあるか→発行後が大変。京都に学びながらケアをしていきたい

2. 滋賀ではなく、発酵をテーマにすると広がるかもしれない。地域とテーマという2つの
しほりを持つことについて→一番は滋賀の魅力を伝えていきたい。発酵というテーマをモツ
ことで、滋賀に興味なかった人にもアプローチできる可能性。縛りとは思ってない。アイ
テムが限定されている分、その中のバラエティをお伝えできれば。

(光岡さん)

1. 発酵食品でないのに特集できる生産者がいたときに、テーマの縛りが枷にならないか。
(バラエティ) →発酵か滋賀かといったら「滋賀」

2. 都市生活者ターゲットというが、生産者とつなげるという点では、地元ターゲットも視野に入れたほうがよいのではないか→メインターゲット 学生食堂を運営。親御さんを離れた学生 滋賀を離れた人の食文化はどうなった？逆に滋賀に嫁いだ人が各地の実家に届けるような食べる通信にしたまとも (しいねさん)

1. 滋賀出身者→一人 一番の当事者は？→黒川さん (京都在住だけど、滋賀近い)
副編集長の役割 林さん (広告代理店出身。いまは東京で企画の仕事) SNS回り
才元さん 管理栄養士さん 発送や事務回り

○マイファームつくる通信

「地産地消ができる社会をつくる」野菜作りが好き、農業が好きとみんなが言えるような社会

作る行為を通して野菜を好きになる。

農地へ行く回路をつくる

実際に農家になる人向けの大学をつくる

自分たちにも抱えている課題がある。

同じ思いを持っている人たちとやりたいと思い、食べる通信×マイファームを考えた。

編集長：西辻一真

高校生の時に「農家になる！」と進んできた。

しかし、10年前に挑戦するもなれなかった。昔と比べると今は農家になりにくい。

野菜作りは年齢を問わない。

マイファームつくる通信では、毎月固定種の種を提供する。

固定種は種を育てることができる。種を増やしてみんなと交換

最上級の「つくる」は生産者。読者にもその輝いている姿を見てほしい。自分の未来にも照らし合わせてほしい。

Q&A

兵庫：光岡さん

「事業計画の中で3000部赤字200万。損益分岐が大変ではないか？」

西辻さん：

辛いと思っているが、貸し農園のお客様の中から出して行く形で行こうと思っている。

販促予算と考えている。

稲花：手塚さん

読者が12回まく場所があるのかな？

西辻さん:素人にとっては大変だと思う。が、家庭栽培キットを買ってもらえば大丈夫かなと。だから、家庭菜園キットを買ってほしい

奈良：福吉さん

「紙面作りが大変。時間と労力があるが、その辺りはどう思っているか？」

西辻さん：

毎月ニュースレターを発刊している。その冊子を作り続け5年。それをリニューアルして「食べる通信」の形にする。クオリティーに関してはどうしていけばいいか悩んでいる。

奈良：福吉さん

食べる通信は、食べると読むのタイムラグがない。つくる通信はどうするのか。

西辻さん：

自然の速度に合わせていく。植えられるものを紙面で特集しよう。

稲花：手塚さん

「食べる通信」という名前はどうか。

西辻さん：

副題等に「食べる」というワードを入れるか。検討中。

山形：松本さん

年間の予定、全国の読者さんを考えた時に種まき時期がバラバラになる。

西辻さん：

想定ターゲットは普段から土に触れていない人。都市部の人々。

山形：松本さん

連作障害のフォローは？

山形は伝承野菜をテーマにしているので、種を取るところも是非是非フォローしてほしい！

西辻さん：

連作障害は、農家のお便り編に作り方や田作について教えてくれる形を載せる形でフォローする。

18:25 アジア展開報告

○台湾

・4か所を回った。

初日：

カンさん：台中は街中で食に関心がある人が多い

江守さん：女性や学生が多くてびっくりした。

カンさん：食べる通信に深い理解がある

江守さん：日本と社会課題が似ている。だから関心をもってくれているのかな。

カンさん：日本と同じように担い手不足。生産者に会う機会がないし、なかなか一次産業に関りがない。食べる通信を通して繋ぐことで問題解決に近づけるのではないか。

○韓国

社会的経済国際フォーラム

江守：フォーラムでは食べる通信の事例や編集長紹介をした。

キム：高橋さんの話はおもしろい。聞いていた人たちの多くがもっと話を聞きたいと言っていた。

江守：「首都圏一局集中」という問題は同じ。韓国は日本よりも集中している。衣食住に関する展覧会を旧ソウル駅でする。「食」の部分で奈良食べる通信が出る。

高橋：何で呼んでくれるんだろう。

→儲からなくてもやらないといけないことをしてきたから。損得の事業をしていたら、呼んでもくれない。速く行くなら一人で行く。遠くへ行くならみんなで行く。僕らが目指している社会は遠い。だから日本を超え、アジア全体を巻き込んでみんなで目指していきたい。

食べる通信はネットワーク 全国どこへ行っても、美味しい居酒屋に連れて行ってもらったり、生産者を紹介してもらったり、情報をもらうことができる。国の税金だと思えばいい。

外部連携報告

編集部・読者のネットワークをこれからもっと視覚化していこう。

○willer corporation

旅行・食・地域をキーワードに、独自の視点で新しい価値を生み出すトラベルプロデューサー集団。「MARUNOICHI TRAVEL LAB」そのプロデューサーに高橋博之が就任。

これから商業しようとしている人たちが「つまり（社会的な）」を食べる通信のネットワークを通じて解消しようとしているので、受ける。

例えば。。

レストランバス。一階に厨房、地域の食材を積み込んで、2階のオープンルーフで食べる。

○無印良品

OpenMUJIで、MUJI主催により、生産者や消費者をつなげるイベントを開催していく。

仙台店

阿部：東北でやっているのは、仙台店。そこでWSを開催。地元根ざしたイベントをやりたいという無印側のニーズから、生産者によるワークショップを提案。

第一回目は、ホヤ漁師と一緒にホヤをさばき、その場で食べた。

リアル感があるイベントで、都会の無印で生産者と交流できる新鮮味があった。
毎回、1日ほどで埋まる。

有楽町店

大槌吉野さん：

ターゲットが都会の人々なので、東京でやっている。

毎回ゲストを呼ぶ。

参加者は無印ユーザーで、普段会えない人と会うことができる。

ソトコトの編集長を呼び、その読者層との交流もあった。

山形松本さん：

「伝承野菜のある暮らし」

焼き畑あつみかぶを食べながら伝承野菜とは？を伝えた。

このようなイベント各地のMUJIで各通信がやっていければ。

これからの無印とのイベント予定

・北海道食べる通信「昆布の正しい使い方」

利尻昆布と真昆布の味の違いを楽しむだけではなく。

こんぶを担う人が減っていているなど今ある問題を交えながら。

協働PR—お試し購読企画—

目的：エキスポ以外での連携機会を増やす・全通信一斉にPRすることで多くの人に知ってもらう。

参加通信数11通信の結果

・2月+3月=97名

・内新規登録=51名

京都鈴木さん：

・1月号のチーズをお試し購読に。社内に知られてないためまずは社内でPRした。

「毎月は無理だけど一回だけなら試してみようかな」という人がいた。

ひろしま梶谷さん：

・バタバタしていてあまりアピールできなかった。

・全通信で一緒にやったことに意味があったと思う

連携・外にPRを一緒にやるには？

ふくしま

ふく高の子たちは4月号相馬食べる通信（コウナゴ）を取材。相馬はふく高を取材。

→こういうような連携もある

奈良福吉さん：

編集長同士が手を組んで

4月～5月西宮の百貨店で奈良・兵庫・淡路島？で催事をする。

過去の紙面と食材をくっつけてマルシェだけじゃなく、食べる通信も知ってもらおう。

レストランに出す

TUTAYAの集客をしてもらい、奈良の生産現場案内を奈良食べ通が担当。

兵庫：

ホテルセトレと提携し、部屋内に食べる通信を置き、その特集食材をつかった朝食を出す。

ホテルセトレ：

食べる通信を知らない人にアプローチするだけではなく、生産者さんや購読者さんもホテルに来ていただけるようにしたい。

事例共有

○大槌食べる通信

大槌～東京間をタダで行き来できる→大槌から築地に魚を出す時に乗っけてもらう

事務所もタダ

ふないけんきゅうじょ：プロボノ形で経営を見てもらっている

Webメディアと連動している。

→社会に良いことをしていると周りから応援してもらえることが多いと思う。

・巻き込む時に必要な事

声をあげること。関心が集まりそうなところに行くこと。

大切なことは伝える時に「自分がなぜそんなことをするのか」

『キッカケは、大槌に2011年の4月に初めて陸前高田に行った。震災後に大切な人を亡くした人の気持ちが分からない。でも、その人たちの傍にいて喜怒哀楽、日々を共にしたいと思った。

その時に、食べる通信を立ち上げようと思った』などを伝えていく。

その結果、いろんなことに恵まれた。

○山形食べる通信

2年目の挑戦は、焼き畑あつみかぶ。

その農法は林業と組み合ったもので、江戸時代から伝わってきたもの。

「焼き畑」と聞くと環境破壊を思い浮かべるかもしれないが、人と森と一緒に生きていくための焼き畑というものでしている。

地元の森林組合が、森を守るために栽培を始めた。

ただ、販売をしたことがない問題。

地元ですでに販路を持っているあつみかぶと、販売でバッティングしたくない。

→山形食べる通信の提案：漬物用のかぶを、加熱させた食べ方を開拓。

実際に届いて、いろんなレシピを読者が投稿。

山形の人々、生産者は、あつみかぶといえば甘酢ずけという発想。

新しい食べ方に生産者も感動し、来年も頑張ろうと言っており、食べる通信をやっていてよかったと思った。

捨てられていた葉っぱの商品開発も進行中。

他、かぶの半分は販路が決まっていないので、売り先が思い浮かぶ方をお願いします。

○長島大陸食べる通信

生産者とコラボレーションして、生産者のHPを作る、ツアーを計画している。

阪急交通社との連携

- ・旅行業界で6番ぐらい。町と企業で連携をしていて、食べる通信とも絡められたらと話していた。
- ・体験型観光を進めたい阪急交通社と、観光政策を進めたい長島町。
- ・高齢者の方々と観光地は行き尽くしており、体験に対するニーズが高まっている。

長島では鰯の養殖。海のいけすにいる鰯にエサをやるとか出来るなと思った。

例えば、デコポン狩りをする。収穫後に長島大陸食べる通信を紹介。みなさんが体験したものの（食べたもの）は食べる通信で都会でも味わえますよと絡めていこうかな。

ゲストコメント

○日本財団栗田さん

2年間、食べる通信を支援してきた。

今年度も、お手伝いをする事になった。

なぜ、こんなにも支援するのか。

ソーシャルイノベーション、社会課題を解決する。個別具体の社会課題に取り組むのではなく、社会課題が生まれないうちにはどういう社会にしていくべきかという取り組み。

食べる通信はソーシャルイノベーションだと思う。農家漁師がかっこいい社会を。

○水代さん

僕らも生産者と消費者をつなげている。
自分たちも失敗しながらノウハウを蓄積している。
それをお互い共有しながらやっていけると、もっとノウハウが溜まっていくのではないか。

自分たちが考えているのは、生産者と消費者をつなげるのもそうだが、横の関係。生産者どうし、食べる人同士をつなげる。そこから地域というものを作っていく。そこをしていかなないと、社会に対するインパクトは与えられないのではないか。

生産者同士が繋がったときに、生産者の思いに心から共感し、販売・デザインをしてくれる人がいることで、まだ興味のない人には届いていかない。その斜めの関係を作っていくことも大事。ただ、まだそこはできてない。
まずは横のつながりを作ってから、斜めの軸を広げていきたい。

二日目-2017.4.2-

新規創刊審査結果

滋賀、マイファームともに加盟承認！
加盟団体39、都道府県は32に。

来期予算&運営方針

～食に「参画」する回路を開く。生産者と消費者の接点最大化～
日本財団助成金3080万円+自主財源1800万円=4900万円で運営。自主財源確保のために、工藤・江守が今までフォローをしてきたが、大きな効果は得られない。リーグの持つ役割は、ハブ。各通信をつなげていく。

食べる通信ネットワークと生産者ネットワークを可視化しその価値を最大化。外部連携による新規事業開発を積極的に行う。（ウィラー、JTB、無印、ANA等）
日本財団ソーシャルイノベーター支援制度の「特別ソーシャルイノベーター」（1億円×3年）獲得を目指す！

リーグ会議での交通費補助は、次回からなし。

自主財源のうち、コミッション見込み1500万円に対して交通費補助年間480万（40団体×3万×4回）はあまりにバランスが悪いため。

光岡さん（兵庫）

特集後も関係をもてる、買えるような生産者データベースがほしい。

各通信・状況報告

・備中：休刊（リーグ退会手続き中）

食べる通信ではない形で食べる人とつくる人をつなげる活動をしたい。赤字が続いたこともあり、財源を別に使いたい。

・四国：発行休止中（2018年春再開を目指し、検討中）

編集長が変わる。創刊のときからやっていた地元の銀行でアグリビジネス支援をしていた人。その方が、編集長になるが、仕事の退職の関係で今年からはできず。

・長島大陸：井上貴至→間瀬海太

・京都：大西梨加→鈴木晴奈

・魚沼：井上円花→佐藤英里

・伊勢志摩：竹内千尋→橘麻衣

※各団体の都合による「一号休止」は認められません。

リーグ全体のサービスクオリティやコミッション予算のため。

※表現方法は、廃刊→休刊。1号休刊→休止or1号休止

（ポタジェ齊藤さん）

企業の協賛をもらうためには、しっかりした運営が重要

システム関連

我々のもっているコンテンツをオープンにすることで、他のプレーヤーが世の中をよくすることに使ってくれたりするのではないかと

社会に価値を提供できるようになるために何ができるかを考えてシステム投資していきたい

改修完了

・加盟者サポートページのリニューアル

・決済システムの切り替え webpay→pay.jp

3/23以前のクレジットカード決済については、4/30が払い戻し期限

改修検討中

・スキップ機能

・一斉メール（コンビーズではなく、管理画面から配信）

クロネコヤマトの配送指定は？

→選択肢を消すだけだと思うので、そこまで大変ではないと思う。佐川やゆうパックとの整合性が悩み。

東北食べる通信Facebookページ変更事例

もともと「NPO法人東北開墾」の近況報告になっていた。読者獲得の意味では、閲覧者の期待に答えられていないのでは。

→「東北食べる通信」のサービスページに。期間ごとに投稿内容を決め、複数人で編集しながら文章を作成。

→購読者の増加は目立った効果はわからないが、一番響いたのは2月号の増量・牡蠣のおかわり。

次回リーグ会議 : 6/17-18@京都!

第14回は2017.09.16-17 (予定)

第15回は2017.12.02-03 (予定)